

平成28年度 学校自己評価システムシート(埼玉県立羽生高等学校)

目指す学校像	不登校等の課題を抱えた生徒の基礎学力・集団生活力を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校
重点目標	1 生徒個々の能力や適性を把握し、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の定着に努める。 2 生徒の進路意識を高めさせ、進路実現を促す指導を推進する。 3 生徒に基本的生活習慣を身に付けさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。 4 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実にも努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	14名

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
年 度 目 標	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	生徒の基礎学力や学習意欲に差があり、保護者の学校に対する期待も多様化してきている。個に応じた指導が必要である。	授業改善による生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着	①授業方向上研修会や研究授業の実施により、協同学習の実施等授業改善を図る。 ア 授業がわかりやすいか。 イ 指導方法に工夫はあるか。 ②授業のユニバーサルデザイン化を進めることができたか。授業内容の意図を理解させることができたか。 ③基礎学力向上補習の指導を充実させる。	①7月及び12月の生徒アンケートによる以下の項目の肯定的評価率を向上させることができたか。 ア 授業がわかりやすいか。 イ 指導方法に工夫はあるか。 ②授業のユニバーサルデザイン化を進めることができたか。授業内容の意図を理解させることができたか。 ③参加生徒数と取組状況を向上させることができたか。	A
	評価と履修指導についての工夫・改善		①履修と修得、単位制がよくわかる履修指導と手引きの作成を行う。 ②ピアサポートを活かした指導を行う。 ③評価の工夫・改善を進め、教科間、担当者間のばらつきをなくす。	①各教科と連携し履修条件を見直した。また、履修指導のトラブル集を整理し、指導に活かした。 ②履修状況改善を目指して複数回面談を行った。 ③概ね納得できる評価が出来た。	A
2	卒業を目的とする意識をより高めるとともに、意欲的に授業に参加させて基礎学力や社会性を養う必要がある。さらに進路実現を促す指導が求められている。	進路意識の向上と社会性の育成による進路実現	①就職支援アドバイザーを活用した面接指導、模擬授業や進路講演会などの進路行事により生徒の進路意識を高める。 ②進路について必要な情報を効果的に生徒・保護者に提供する。 ③実社会で役立つソーシャルスキルトレーニング(以後SSTと表記する。)を実施する。 ④ハイター情報、高等技術専門学校、奨学金制度の活用など学費面に係る情報提供を行う。 ⑤部活動、生徒会活動を活発にするとともにアルバイトの推奨などによりコミュニケーション能力を育成する。 ⑥各種検定試験を積極的に実施する。	①行事実施後の生徒アンケート結果から意識を高めることができたか。 ②適切な情報提供をすることができたか。 ③社会性やコミュニケーション能力についての意識するなど生徒の進路意識の向上を図ることができたか。 ④経済的な準備に対する意識を高めさせ、進路実現に結びつけることができたか。 ⑤部活動、生徒会活動を活発にするとともにアルバイトの推奨などによりコミュニケーション能力を育成する。 ⑥検定受検者数を増やすことができたか。	A
3	不登校等、対人関係で課題を抱えている生徒がいる。特別支援教育の視点を活かした指導の充実に努められている。	教育相談の活用とコミュニケーション能力の向上	①中学校等の生徒情報を収集し、これに基づき、担任面談・保護者面談等を実施する。 ②スクールカウンセラー(以後SCと表記する)、スクールソーシャルワーカー(以後SSWと表記する)と連携した保護者・生徒との定期的な面談によりコミュニケーションアップを図る。 ③教職員の指導力の向上を図るため、特別支援教育コーディネーターを講師に定期的に研修会を行う。 ④学校設定科目「コミュニケーションⅠ」を活かし、対人関係の指導を強化する。	①指導に役立つ情報収集を実施し、面接指導の工夫や実施回数が増やすことができたか。 ②生徒の意識やコミュニケーション能力の変化を見ることができたか。 ③特別支援教育の視点に立ち、継続的、効果的な個別の支援をすることができたか。 ④生徒の良好な対人関係を構築することができたか。	A
	挨拶や言葉遣い等日常生活におけるマナーの改善が必要な生徒がいる。継続的な生徒指導が必要である。	社会性やマナーを育む積極的な生徒指導の推進	①挨拶の励行を促す朝の声掛け巡回指導を継続する。 ②過去の資料を分析し予防的な生徒指導を実施し、指導件数の削減を図る。 ③社会性やマナーを育む視点から生徒指導マニュアルを見直す。	①計画的、継続的な指導により、挨拶ができる生徒を増やすことができたか。 ②問題行動を防止し、指導件数を削減させることができたか。 ③職員間の共通理解のもと、適切にマニュアルを見直すことができたか。	B
4	県民・地域及び中学校に本校の特徴と特色ある教育活動のアピールが十分ではない。広報活動を充実させる必要がある。	HPや学校説明会等による情報発信や広報活動の工夫	①HP担当だけでなく、全職員による魅力ある、適時・適切な情報発信を行う。 ②地域、近隣住民へ回覧等により情報発信する。	①適時の更新とアクセス数の増加、部活動の活動状況の発信をすることができたか。 ②各種の学校情報を発信することができたか。	B
	地域の生涯学習機関としての役割を担っている。更にその機能を発展させる必要がある。	生涯学習機関としての地域に開かれた学校づくりの推進	①特別講座、科目履修、学校公開講座を充実させる。 ②学校評価懇話会の意見や助言を活用する。 ③地域との連携を図る。	①開講講座数、受講者数を増加させることができたか。 ②意見や助言を反映させた取組をすることができたか。 ③生徒会を中心とした地域行事への参加やボランティア活動を充実させた。	A

学校関係者評価	実施日:平成29年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	学校関係者からの意見・要望・評価等 授業改善として授業のユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの授業実践や研究授業の実施、学習支援員の導入など具体的な改革を感じることができた。是非、継続してほしい。
	SST等の実施により生徒の社会性向上への取組は大きな成果があがっている。是非、これから継続をお願いしたい。 進路情報や給付金、奨学金などの情報を生徒や保護者に周知することの難しさは、大学でも感じている。さらに適切に周知できるよう工夫をお願いしたい。
	中学校では目立たなかった生徒が真面目に取り組み、評価され、自信を持つようになり、学習意欲が向上している。認められることの大切さを感じた。 生徒指導マニュアルやいじめ基本方針の改訂など生徒指導に関する実態に応じた改善は実施されている。引き続き、家庭への働きかけとともに細やかな指導をお願いしたい。 生徒自身が、自分達の手で何が出来るかを先生方と相談し、提案していくことで生徒自身の思考力、判断力、表現力を育成し、生きる力が育まれて成長していく。生徒の皆さんは、是非、自分から前へ進み出る力を培ってほしい。
	教育活動をさらに工夫するとともに、効果的な情報発信を通して、多くの方に学校の魅力を伝えるほしい。